



## 例会

### 3月3日（日）

### 10：00～12：00

### 森の里公民館3F会議室

#### 懇談会・ビデオ

9条改憲、原発、ガザ攻撃、ウクライナ侵略戦争、物価高、地域の問題などについて話し合い、共感し合いませんか。

「9条改憲、原発、ガザ攻撃、ウクライナ侵略戦争、物価高、地域の問題などについて話し合いませんか？」

1月14日（日）

10月18日放送のNHK「あさいち」処理水は？廃炉は？ みんなのキニナルに答えます』を見ました。廃炉がいかに困難であるかがよくわかりました。政府・東電の計画通りに「処理水」の海洋放出や廃炉作業が進むのか、大いに疑問です。

福島第一原発内部をロケ！ 処理水放出や廃炉への素朴なギモン： 視聴者から寄せられた質問を東電の担当者に直撃！ 放射性物質は： 環境への影響は： 専門家にも徹底取材。漁師は： 市民は： 福島の人たちの本音を聞く。メルトダウンした内部は今…

（番組の解説から）

▼政府は漁業者や住民の理解を得られるまで処理水を放出しないと断っていたが、それをやっていない。  
▼岸田首相や政府の「国民に丁寧な説明する。」という言葉は様々な場面で何度も聞いたが、そういう問題ではないことばかりだ。  
▼凍土壁を造って地下水を中に入れない方法が、うまくいっていないが、地下水を止めることが重要。凍土壁が有効だ。  
▼モルタル固化法が有効だ。汚染

水をセメントと砂でモルタル化し、半地下の状態でも保管する方法で、アメリカで実用化された例がある。

▼処理水の海洋放出は諸外国でも行われていて、福島沖の放射性物質濃度が特に高いわけではないというが、燃料デブリに直接接触した処理水である点が違う。

▼事故から12年たっても燃料デブリを1グラムも取り出せていない。燃料デブリは880トンある。6年かけてロボットアームを開発したが、取り出し口が詰まっています。まじくいいくない。

▼廃炉が終わらない限り汚染水は出続ける。30年で海洋放出が終わるわけがない。

▼風力、水力、地熱、太陽光などの再生可能エネルギーで得られるエネルギーは、日本の需要エネルギーを上回ることが分かっている。再生可能エネルギーへの転換を進めるべきだ。

▼福島第一原発の事故後、再生可能エネルギーへの転換が必要と言われたが、政府は転換に力を入れてこなかった。

▼福島第一原発の事故後、ドイツは再生可能エネルギーへの転換をかなり進めた。

▼志賀原発の地下には活断層があるとされている。

▼能登地震では、半島の道路が各地で通行止めとなっている。志賀原発に限らず半島や急な山が迫る海岸の原発は、住民を計画通りに避

難させられない。

▼自分にはあまりにも知らないことが多かった。分かりやすく説明していたが、安全だということを強調していた。原発はなくす方向で検討してほしい。

▼政府は最長60年運転するが、大丈夫だと言っている。しかし原子炉内部は傷ついている。誰も目視でそれを確認していない。

▼ガザ地区でイスラエル軍が行っていることは大虐殺で、かつてのナチス・ドイツと同じだ。

▼日本のテレビ局がホロコースト（ナチス・ドイツによるユダヤ人大虐殺）を生き延びた人たちにインタビューしていたが、ネタニヤフ首相のハマス壊滅を支持していた。

## 読者の広場



### 統廃合問題

森の里からの報告

私の住む森の里は、39年前に開設されたニュータウンで、厚木市内15地区の中で一番高齢化が進んだ街で、65歳以上が46%を超えています。

一昨年に教育委員会から提案された小学校や中学校の統廃合は、森の里は最重要地域とされました。住民は、都市から集まった教育熱心な親が多かったので、学校運営

や環境作りに積極的に関わって地域協同の体制が作られていました。「森の里っ子」と言われ、子ども達も大事にされてきました。その様な教育環境が住民等の誇りでもありました。

一 昨年の適正規模、適正配置なる、教育委員会案の説明会が、学校をはじめ、一丁目から五丁目までの全ての自治会で開催されて、どの会場も熱の入った質疑がなされました。そうした中で、このままでは学校がなくなるといふ危機感が広がり、母親達や自治会、公民館を中心に話し合いがされてきました。

昨年2月に市教育委員会は学校保護者や未就学児保護者、不特定多数にアンケート調査を行いました。森の里地区では、85%が学校を残してと切望して、300件近くの意見が寄せられました。

小規模少人数の学級であれば、きめ細かに子どもたちに目が届く教育が出来て、教師の負担も少ないのではと云う意見や、小中一貫校にすれば学校を残すことができると。その場合は施設一体型が良いのではなど、さまざまな自由意見です。

また、学校がなくなれば地域の未来もなくなるとの意見が多かったのも森の里の特徴でした。学校がなくなれば、地域コミュニティーが

衰退して、若い人が住むことができない限界集落になってしまう。街の存続のためにも学校は必要との意見でした。これらのアンケート結果を、行政が受けとめてくれたものと思っています。小学校、中学校ともに小規模特認校として残すことになり、森の里の住民はほっと安堵している所です。

しかし、現在小学校は、各学年一クラス、中学校は辛うじて、二クラスの現状です。近い将来、このまま対策が成されなければ再び統合の対象となります。あと10数年後、世代交代が進むまでに森の里の教育環境をアピールして、他の地域からの児童生徒を受け入れるなどの特色のある学校作りや、魅力ある地域造りをアピールしていかなければと私は考えます。

今回の学習会で学んだことをさらに深めて住民の共通課題にして、森の里にふさわしい学校を創造出来ればと思います。  
(これは、1月28日に第2回学習会で発表したものです。)

岡本晴美

怒りは人に伝わる形で

昨年11月3日、日本国憲法公布の記念日に、国会前集会に行きました。自公政権が憲法無視のやり

たい放題の政治を続けているにもかかわらず、集会参加者は約4000人。市民の怒り不足を感じました。

この日の集会を、朝日その他の全国紙は記事にしませんでした。共同通信の配信を受けたと思われる地方紙の多くが伝えていたのは、対称的でした。テレビは、私が調べた限りでは報道しなかったようです。

同じマスメディアが、今は違法性や悪質性が指摘される自民党の裏金事件を、連日伝えていきます。時効にかからない過去5年間の裏金が問題になっていますが、裏金作りは何と20年以上も前から行われていました。

選挙の応援演説で、「こんな人たちに負けるわけにはいかないのです。」「と言った、安倍晋三風に言うなら、「こんな人たちが改憲や軍拡、増税、原発再稼働、辺野古新基地建設などを進めてきたのです。その他、モリ・カケ・サクラ・公文書改ざん・日本学術会議会員任命拒否等々、数々の疑惑や大企業・金持ち優遇、庶民軽視の政治。これを、まあまあそんなに怒らなくても、「こんな人たちがやっ

て来たことを、あなたは許せませうか。長い間庶民は、自公政権からなめられっぱなしでした。しかし、「けしからん。ふざけるな。」と、頭の中で思うだけでは意味がありません。人に伝わる形で怒りを表す必要があります。そうしないと政

権に都合よく取られてしまいません。「国民は我々に反対してはいない。」と。もう「こんな人たちに政治を任せるわけにはいかないのです。」

※事務局では皆さんからの一言を募集しています。身近なエピソードやつぶやき、森の里のトピックスなど、何でもよいのでお寄せ下さい。先にお配りした葉書もご利用ください。

スタンディングと署名活動  
1月21日(日)

雨天のため今回も中止にしました。



マンリョウ

### スタンディングと署名活動のお知らせ

日時: 3月17日(日) 10:00~11:00

場所: スーパー三和前

★どなたでもお気軽に参加大歓迎です。

★手作りの表示板の用意あります。

例)「キシダ政治を許さない！」

「9条壊すな！」

「NO WAR！」

「大軍拡・大増税反対！」